

# 波音

なみおと



清水海岸だより 創刊号(H17.12)

SHIMIZU KAIGAN DAYORI



NAMIOTO

## 波音(清水海岸だより)発行に寄せて

静岡土木事務所清水支所では、清水海岸周辺にお住まいの皆様や  
県民の皆様に対して、清水海岸の海岸保全事業などを広く知って  
もらうために、清水海岸だよりを発行することになりました。

名前も清水海岸の波の音を皆様にお届けすることが出来ればとの  
思いを込めて「波音(なみおと)」としました。

この波音を通じて、地域と一体となった海岸づくりに活かして参  
りたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

## 特集

# 三保海岸と地形



### 三保の名前の由来は？

三保の名前の由来は、半島の先端が3つに分かれた分枝砂嘴(さし)のことから付いたといわれています。

安政大地震(嘉永7年11月)の発生で貝島付近が隆起したことが分かっていますが、砂嘴は明治時代以降埋め立てなどによって変形し、はっきりわかる3つの砂嘴がなくなってきています。

(参考資料：土隆一「静岡県の自然景観—その地形と地質」第一法規、『清水港 開港100年史』静岡興)



安政大地震前



安政大地震後



明治20年の三保半島



現在の三保半島



### 有度山が誕生しなかったら三保半島はなかった？

有度山は、約10万年前から少しずつ隆起し始めて、今では日本平付近で300メートルの標高に達しています。

また、有度山は、隆起した当時はドーム状の形をしていたといわれています。その後、有度山東側と南側が、外洋性の荒波によって侵食されて削り取られたことで、ドーム(円)が四分の一になり、沿海流で東に運ばれた砂礫が三保半島を形成したものと推測されます。

仮に有度山がなかったとしたら、おそらく強い潮の流れのために三保半島は言うに及ばず静岡・清水両平野とも幅の狭い海岸平野としてしか作られなかっただろうと予想されます。

(参考資料：『巴川流域整備計画』巴川流域総合治水対策協議会 他)



海流による有度山の侵食



6000年前



現在



### 安倍川と清水海岸は親子のような関係？

静岡・清水両平野の形成にあたっては、安倍川が運んできた膨大な量の砂礫(されき)で静岡平野を作り、一方、東方は少しずつ入り海を埋め立てて現在の清水平野を作ったと思われます。

かつての静岡海岸や清水海岸などは、100メートル以上の砂浜で海岸を形成していましたが、昭和30年代に入ると安倍川の土砂採取により侵食が急速に進み、昭和40年頃から静岡海岸で侵食が発生して、昭和60年代には清水海岸まで侵食が到達しました。

安倍川の変化が清水海岸にも変化をもたらすことが分かっていたら、もっと早く対策がとれたといえます。両者は親子のような関係にあるといえます。



安倍川の風景



静岡海岸の風景



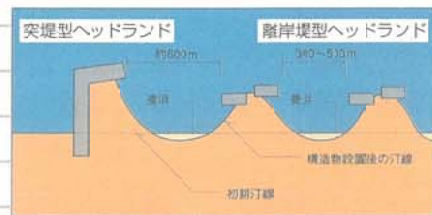
清水海岸の風景

## 高潮対策事業の概要



ヘッドランド区間

清水海岸の三保地区では、高潮による被害を未然に防ぐために砂浜の幅を確保する目的で、平成元年からヘッドランドと養浜の組み合わせによる高潮対策事業が行なわれています。ヘッドランド工法とは、岬と岬の間に挟まれた砂浜が安定していることにヒントを得た工法です。



ヘッドランドと養浜のイメージ図

## 河川事業との連携

養浜事業の実施にあたっては、良質な養浜材を継続的に確保するために、安倍川の堆積土を養浜材として使用することで安定した供給をしています。安倍川については、海岸侵食の発生の原因ともなっていた砂利採取を禁止して以降、逆に川底が上昇し、治水安全上問題が生じた区域もあり、流れを妨げる箇所について砂利採取を行い、養浜材として利用しています。



安倍川での砂利採取



三保の松原の風景



お問合せ、ご意見はこちらまで

静岡県静岡土木事務所 清水支所  
静岡市清水区日の出町 9-25 (〒424-0922)  
TEL 0543-53-2212 FAX 0543-54-1873

◇静岡県静岡土木事務所 清水支所 発行◇